



# 日鶏協緊急速報No. 2

2025年1月10日  
一般社団法人日本養鶏協会

## 鳥インフル早期発見・早期通報の徹底を！

(通報時のルールを遵守してください。)

江藤農林水産大臣メッセージ（令和7年1月7日・農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部）

昨年の間は、決して良好とは言えませんが、比較的全国の皆様方の御努力によって、鳥インフルエンザの発生を抑えられていたと受け止めています。

しかし、全体では21件（の発生）になりました。100万羽を超える大規模な農場でも発生しています。そして、今年に入ってまだ日が浅いですが、既に5件（発生し）、合計では21件発生しています。



（昨年）11月に緊急全国会議を開かせていただいて、皆様に真剣に議論いただきました。皆様方も今までにない防疫体制を敷いてくださっていたと聞いております。

しかし、そうでありながら、早期通報が出来なかった農場が残念ながら見られます。「違うのではないか、鳥インフルエンザではないのではないか。」 そう思いたい気持ちも分からないでもない。自分のところで発生すれば、移動制限が敷かれて周りの農場にも御迷惑をかける。躊躇する気持ちも分かりますが、しかし、早期に通報することが、最終的には被害の拡大を防ぐ一番の方法であります。 何度も申し上げますが、どんなに努力をしても人間の努力には限界があり、（ウイルスが）入ってしまうときは入ってしまう。しかしそれは、自分を責める気持ちもあるかもしれませんが、怪しいと思ったら、間違いでもいいから通報し、検査を受けていただく。これがこの養鶏業界を守る一番の道だと思っております。



# 日鶏協緊急速報No. 2

2025年1月10日  
一般社団法人日本養鶏協会

年始に当たって、皆様方にこのような会を持たせていただいたのは、懸命に御努力をいただいて、それぞれの都道府県でも市町村でも、家畜伝染

病予防法に基づく演習を含めて懸命な努力をしているにも関わらず発生しているということは、それほど鳥インフルエンザが全国に拡散する可能性を秘めているということだと思えます。ぜひ、消費者の方々におかれましても、大変なまん延拡大になれば、卵価や鶏肉の値段も上がるかもしれません。それは消費者の皆様にとっても由々しき問題でありますので、先ずは農林水産省が一番のヘッドクォーターですから、もう一度緊張感を持ち直して、それからそれぞれの地方農政局の皆様方も、それぞれ部下の皆様をしっかりと督促していただいて、これ以上増えないように、発生をゼロにすることは限りなく不可能かもしれませんが、できる限りゼロに近づける努力をして、まさに今トップシーズンですから、緊張感を持っていただきたいと思ひ、このような席を設けさせていただいた次第です。

農政局の皆様方、消費・安全局、それから事務次官以下職員一同、緊張感をもってこの事態が深刻にならないよう御努力いただきますことを、よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

【高病原性鳥インフルエンザ対策本部 事務局】

[一般社団法人 日本養鶏協会](#) 担当：石井、阪本、利根

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）